

## 戦争勃発の脅威を高める米韓、日米合同軍事演習

2011年1月23日 リブインピース@カフェ

昨年末から、実際の戦争と見まがうばかりの軍事演習が東シナ海、日本海などで立て続けに行われている。朝鮮民主主義人民共和国への攻撃と中国との領土紛争を想定した露骨な大規模演習である。いったいどんな軍事演習が行われていたのか。

### (1) 米韓合同演習(11月28日～12月1日)

#### (投入された戦力)

米海軍 原子力空母ジョージ・ワシントン(GW)と搭載されたF/A-18 ホーネットなど戦闘機約80機、イージス巡洋艦「カウペンズ」、駆逐艦「ステザム」「ラッセン」など4隻、兵員約6400人

米空軍 F-16 戦闘機8機、A-10 対地攻撃機 4機

韓国海軍イージス艦「世宗大王」、P-3C 対潜哨戒機など

韓国空軍 F-15 戦闘機4機、F-16 戦闘機4機

#### 演習日程

28日 ・空母護衛、離発着訓練

29日 ・米韓両海軍のイージス艦計4隻が通信訓練。

- ・地上監視用の米軍偵察機が出動し、北朝鮮軍の海岸砲や地上砲の動向を探知し、地上基地に連絡する訓練。この通信訓練は、実際の北朝鮮の陸海の兵器配置を詳細につかみ取り、その情報を元に攻撃を加えるという実践訓練。
- ・空母強襲作戦、海上自由攻防戦、対空防御および水上艦訓練、対潜訓練、通信訓練

30日 ・大量破壊兵器(WMD)を積んだ疑いを持つとした北朝鮮船舶を臨検する訓練。いわゆる「海上封鎖作戦」。米韓による黄海での合同演習で、北朝鮮のWMD封鎖訓練を実施したのは初めて。

- ・大量破壊兵器拡散防止構想(PSI)による海上封鎖作戦。対空防御訓練、艦載機と空軍機を利用した空中侵入・対応訓練、空母強襲作戦など。

1日 ・「敵」との交戦状態にある緊迫した状況下で、軍需物資の補給や空母護衛を中心に訓練。

大規模な海上射撃訓練、食糧、武器、弾薬などの軍需物資の補給、空母護衛訓練など。

## ( 演習実態 )

軍事演習では、これまで北朝鮮と中国が断固として拒否してきた米原子力空母 GW の黄海進入。ジョージ・ワシントンからは 30 秒ごとに 1 機の割合で戦闘機が出撃、激しい空中戦、戦闘機から海上への実弾射撃や朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）内陸部の地上目標を想定したじゅうたん爆撃、対潜水艦作戦、軍事物資の輸送と後方支援、海上封鎖と臨検等々、まさに圧倒的な軍事力と物量を使いながら、ありとあらゆる北朝鮮への侵略演習が繰り返えされた。米軍の F16C と韓国軍の F15K が敵機（仮想）を制圧し、FA18C/D（ホーネット）や FA18E/F（スーパーホーネット）、A10 などが敵の地上目標をじゅうたん爆撃で吹き飛ばすという訓練も行われた。敵陣からは黒い煙が立ち上った。早期警戒機が敵の水上戦闘団や航空機を捕捉して味方に伝え、艦載機や戦闘艦を総動員して航空機を撃墜し、水上艦を撃沈するという「海上自由攻防戦」も実施された。航空機が海上に実弾射撃を行う訓練も行われた。

## ( 今回の演習目的 )

- ・ 艦船を海空から撃滅 - - 偵察機や哨戒機が北朝鮮の潜水艦や艦艇の所在をとらえ、撃滅。
- ・ 砲台攻撃も想定 - - 空対地の戦闘訓練で、米軍から参加した偵察機「E8 ジョイントスターズ」が敵方の地上兵力をレーダーで監視し陸地にある敵の攻撃拠点を直接叩くオペレーションを展開。戦闘機による空中戦も想定。このほかにも、電子偵察機コブラポールやリベットジョイントなど、北朝鮮の内部をえぐる偵察機が米本国などから飛来し演習に深く関わった。
- ・ 有事の備えはほぼ完了？ - - ここでは特に、大量破壊兵器拡散防止構想（PSI）に基づき、海上遮断訓練、すなわち臨検演習を行ったことに注目。これは武器使用を伴う可能性が大きくなるからだという。
- ・ 北朝鮮を挑発し反撃させて積極的に朝鮮半島有事をつくり出し、一気に平壤を焦土化する、体制崩壊の引き金をひかせる - - このようなシナリオも想起させるような、きわめて危険な軍事演習。軍事作戦の予行演習を終え基本的な運用の確認をした米韓軍が、さらにもう一度 12 月に演習した。軍事挑発、積極的に「有事」を作り出していく危険がきわめて高くなっている。

## ( 韓国・日本のマスコミ報道 )

12 月 1 日、軍事演習の最終日に原子力空母ジョージ・ワシントンに乗船し取材した朝鮮日報の記者は「演習はまるで実戦のようだった」と書いた。韓国メディアは空母ジョージ・ワシントンからの攻撃によって「一瞬で一地域を焼け野原にする」などと報じた。韓国海軍元艦長鄭龍鉉は、合同演習の目的について「両軍の既存の作戦をチェックし、防衛態勢を確認」することであったと指摘する。米韓間に存在する基本的なオペレーションをすべてやり、一通り機能することを確認したという。そして「実戦を想定した今回の演習

で両軍は軍事面で必要な準備をほぼ終えた」という分析を紹介。

1 1月29日報道ステーションは米韓軍事演習に対する日本の深い関わりで、「朝鮮半島有事」において、日本が戦争の当事者、日本全土が北朝鮮を襲う出撃基地になっている、沖縄・嘉手納基地、神奈川・横須賀基地、青森・三沢基地、長崎・佐世保基地など日本全土が出撃基地になり、日本の自衛隊は兵站・後方支援を担わされ、有事の場合ということではなく、今回の演習ではじまっていると報道。軍事評論家小川和久氏は、「朝鮮半島有事」になると、空軍の作戦戦闘機が400機くらい、海兵隊航空機も普天間基地だけで300機くらいにふくれあがる、と指摘。

## (2) 日米合同演習「キーンソード2010」(12月3日～10日)

### (投入された戦力)

米軍からは兵員約1万人、艦艇約20隻、航空機約150機。

自衛隊から隊員約3万4000人、艦艇約40隻、航空機約250機。

韓国軍のオブザーバーも初参加

### (演習地域、演習内容)

日本海域全体と沖縄東方周辺海域での島しょ防衛などを想定し、自衛隊の各基地や周辺海空域では、北朝鮮の弾道ミサイルを想定した訓練実施。

日米共同軍事演習の内容は大別して 弾道ミサイル対処訓練、島しょ「防衛」訓練であったが、特にこの弾道ミサイル訓練は直接、朝鮮半島の西側の黄海、NLL 付近で北朝鮮にむけて韓国が砲撃訓練を行いながら、日本海海域全体で弾道ミサイル防衛訓練をするというのは、まさしく北朝鮮の反撃を封じ込めながら北朝鮮に攻撃を加えるという、きわめて実戦的演習。

B52 戦略爆撃機投入。米側は青森県三沢基地の F16 戦闘機など航空機約 180 機を参加させて、大規模な攻撃訓練実施。

石川県小松基地では、自衛隊の F15 戦闘機や米軍の F16 戦闘機が北朝鮮を想定した艦船に対する攻撃訓練や空中での戦闘訓練。日米の戦闘機を緊急発進させ、離島の防衛を含む空中での戦闘訓練を実施。午前から自衛隊と米軍の合同部隊が敵味方に分かれ、作戦会議。このなかで、自衛隊の F15 戦闘機と米軍の F16 戦闘機の通信系統や部隊の配置などを確認し、午後からは北朝鮮を想定した艦船に対する攻撃訓練や空中での戦闘訓練。

海上自衛隊舞鶴基地では、日本に向けて弾道ミサイルが発射されたとの想定のもと、イージス艦搭載の迎撃ミサイルをつかった本番さながらの演習実施。弾道ミサイル対処訓練を実施している海自のイージス艦「みょうこう」と米海軍のイージス艦「シャイロー」など3隻が6日午前、海上自衛隊舞鶴基地(京都府舞鶴市)に入港。日本に向けて弾道ミサイルが発射されたとの想定のもと、イージス艦搭載の迎撃ミサイル「SM3」発射までの流れを確認。実弾こそ発射しないが、本番さながらの演習実施。

東京・福生市の米空軍横田基地からは、米軍の輸送機も参加。輸送機は日本海に向かい、航空自衛隊や米軍の戦闘機 20 機と通信を行うなど、実戦さながらの訓練を展開。

沖縄県の浮原島では、戦闘時に兵士などが負傷したことを想定して、日米が連携して負傷者を緊急搬送する訓練。

9 日には、アメリカの原子力空母「ジョージ・ワシントン」との訓練も公開。ここでの離発着訓練時に、自衛隊ヘリもジョージワシントンの甲板に降り立つ。

宮崎と鹿児島にまたがる霧島演習場では、陸上自衛隊が沖縄の海兵隊と空や海からの侵攻に備えた訓練を実施。陸自第 8 師団司令部によると、沖縄県金武町（キャンプ・ハンセン）の米軍第 3 1 海兵遠征部隊 1 個中隊約 2 3 0 人が 5 日から 6 日にかけて現地入り。都城市の陸自第 4 3 普通科連隊約 5 5 0 人も到着。期間中、1 日当たり最大 5 機のヘリコプターを使用する訓練が予定されていることから、湧水町は演習場近くの 1 カ所と吉松市街地 2 カ所の計 3 カ所で、ヘリや砲声などの騒音測定実施。畜産などへの影響を考慮し、騒音の記録を残す。7、8、12～14 日の 5 日間の予定。

日米合同演習「キーン・ソード 2010」の実態を雑誌「軍事研究」2 月号が下記の写真を掲載。

- ・ 12/5 米海軍油槽供給艦ディップカノエが、海上自衛隊護衛艦「こんごう」と「いかずち」に洋上給油。「こんごう」は原子力空母ワシントン打撃群の演習に参加。
- ・ 12/6 東シナ海の揚陸演習で、強襲揚陸艦「エセックス」のウエル・デッキに海上自衛艦「くにさき」の LCAC エアクッション艇が進入。
- ・ 12/10 対潜訓練行う米原潜ハウストンに、海上自衛隊 P3C 対潜哨戒機と米海軍 P3C オライオンが編隊飛行。

### （日本のマスコミ報道）

韓国軍による砲撃訓練が始まった 6 日の報道ステーションではこの軍事演習について司会者が「有事という本番のリハーサル」！！と表現し、コメンテーターは「戦争が本当に近いところにあると意識しなけりゃダメ」と表現。しかしこの危機表現とは裏腹に、大手メディアは圧倒的軍事力をもった米日韓の軍事演習と挑発行為こそが戦争の危機の根源であることを問題にしない。「有事のリハーサルをやめろ」と言うかわりに、「有事に備える」というのだろうか。結局はこの異常な大規模軍事演習を肯定的に報じ、民族感情・差別的感情を煽っていた。

### （日米軍事演習による沖縄に深刻な被害）

「本土」ではほとんど全く報道されない。戦争が実際に始まっていなくとも、沖縄は軍事演習の被害を受け不自由な「戦時体制」を強制。本当に戦争になればどうなるのか。敵から真っ先に攻撃を受けるのが出撃基地となっている沖縄であるというよりも前に、米軍と自衛隊によって生活区域が好き勝手に使われ、人々の生活は踏みにじられ、甚大な犠牲

を強いられる。ミサイル搭載車両が住民や自治体への事前連絡もなく国道を走り、米軍ヘリが緊急着陸して急患搬送用ヘリポートが使えず、自衛隊機のトラブルで那覇空港は一時閉鎖。民間航空機は危険な軍用機の過密な演習によって自由に飛行することが出来ず、「本土」からの貨物便は積み残し。実弾演習で火柱があがり、戦闘機の離発着訓練で騒音は耐え難いまでに住民の生活を脅かす。そして、日米の軍艦が20隻が集結し、海洋から沖縄本島をうかがう。

自衛隊が直接参加しない米韓軍事演習においても、沖縄の嘉手納基地や普天間基地に戦闘機、偵察機が米本土から飛来し、騒音被害などが深刻になっていることが一部報道されたが、日米軍事演習は自衛隊も参加することでその被害は一層深刻だ。

軍事演習終了後の13日、嘉手納町議会は日米共同統合演習を今後、実施しないよう求める抗議決議・意見書を全会一致で可決。

ミサイル防衛訓練を間近に控えた12月2日の深夜には、パトリオット・ミサイル(PAC3)を搭載した車両約60台が、嘉手納基地から普天間飛行場とキャンプ・コートニーに移動した。「軍事機密」を理由に住民には全く知らされない。

「2日午後11時すぎ、パトリオットミサイルの部隊は嘉手納基地の第1ゲートから出発。およそ2時間、物々しい車列が国道58号を南下し、普天間基地の第1ゲートから基地内に運び込まれました。また午前2時過ぎには、アメリカ海兵隊の司令部がある、うるま市のキャンプコートニーに向けて、安慶名などの市街地を通過して基地内へと運び込まれました。この真夜中の移動について、アメリカ軍から地元自治体に日程は伝えられておらず、うるま市や宜野湾市は反発しています。」(琉球朝日放送より引用)

嘉手納基地の滑走路改修に伴うダイバート(代替地着陸)訓練と統合演習が重なり、宜野湾市や西原町、那覇市、豊見城市など広範な地域が、激しい騒音にさらされた。そもそも普天間飛行場が連日120デシベルを超える騒音被害がでていることは報じられてきた。演習が始まった3日から7日までで、嘉手納町の騒音発生回数(一日平均)は135・4回と、昨年1年間の一日平均113回を大きく上回り特に4日は基地に近い屋良地区で208回に達し、最大で101.6デシベル(電車通過時の線路わきに相当)の騒音を記録した。

基地対策特別委員長の田仲康栄町議は「中学校で授業が中断したり、爆音がひど過ぎる。住民無視の今回のような演習は今後も予想され、強く抗議したい」と話した。

12月4日午前9時すぎ、那覇空港を離陸しようとした航空自衛隊那覇基地のF-15戦闘機が、機体の異常から離陸を中止。滑走路上の緊急停止用のフック、ヒットバリアで停止した。このトラブルで、那覇空港滑走路はおよそ30分間閉鎖され、民間機の出発が遅れるなど離着陸に影響が出た。

3日以降、本土から県内へ送られた航空貨物便を利用した宅配などの到着が、通常より1日から3日程度遅れるケースが大規模に発生した。過密な演習を警戒した航空各社が、上空待機や九州の空港へのダイバート(目的地変更)に備えて、通常より長い時間飛べるように燃料を積み増した分、搭載貨物量を減らしたのが原因だ。日米共同演習が、沖縄県の生活や経済活動に直接影響を与える深刻な事態となった。

8日午前、渡名喜村の港湾内にある急患搬送用ヘリポートに、米空軍嘉手納基地所属のHH60救難ヘリコプター1機が村への事前連絡もなく緊急着陸。

ヘリポートは約3時間にわたり急患用としての使用ができなくなった。日米共同統合演

習とは別の「通常訓練だった」というが、全国で日米統合演習と連動した軍事演習が大規模に行われた。無関係ではあり得ない。また、沖縄では「通常訓練」で日常的に被害発生がでているということだ。

名護市の米海兵隊キャンプ・シュワブのレンジ10で10日、実弾射撃訓練が強行された。訓練は8日に続くもので、市には地域住民から「うるさい」との苦情が寄せられていた。

嘉手納町議会は13日、先週まで行われた日米共同統合演習を今後、実施しないよう求める抗議決議・意見書を全会一致で可決した。

米海軍と海上自衛隊の艦船20隻以上がうるま市勝連平敷屋の米海軍ホワイトビーチに集結した。

(日米合同軍事演習のもう一つの柱は、南西諸島での、対中国を明確に意識した島嶼防衛・上陸演習)

12月18日の産経新聞は、未公表の島嶼上陸演習を報道している。

【同盟弱体化】第6部 新たな試練(上)「中国刺激する演習控えろ」

<http://sankei.jp.msn.com/politics/policy/101219/plc1012190000000-n1.htm>

以下がその内容だ。

・沖縄南東沖にある在日米軍の訓練区域で、合同軍事演習の期間中、日本側が公表していない訓練が行われた。

・訓練には米海軍強襲揚陸艦エセックスを中心とした第7遠征打撃群(ESG)が集結した。

・防衛省幹部によると「演習目的は島嶼防衛・奪還作戦での『戦い方』を検証することだった」

・ESGは通常、上陸部隊の先兵となる海兵隊を運ぶ揚陸艦3隻と護衛する水上艦艇3隻、攻撃型原潜1隻で構成する水陸両用作戦の艦隊編成である。

・佐世保基地を母港とするエセックスには、同じ佐世保に司令部を置く海上自衛隊の第2護衛隊の隊員13人が連絡調整員として乗り込んだ。海自は揚陸艦のガード役として同隊の4隻の護衛艦を投入した。

・実弾射撃を含むシナリオが進展するたび、連絡調整員は米側と連携を確認し合った。

・米海軍幹部は「文字どおり肩を並べて取り組んだ」と語った。自衛隊幹部も「米海軍はESGの一部に海自を組み込んだ運用を見据えている」と呼応した。

・同時期に、大分県・日出生台演習場で、陸上自衛隊で島嶼防衛を主な任務とする「西部方面普通科連隊」が実動演習を行った。

産経新聞によると、中国を刺激しないために、公表を控えたという。逆に言えば、露骨な領土奪取演習であって、中国の怒りを買うのが不可避と言うことだ。海上自衛隊の護衛艦4隻が揚陸艦のガード役として投入されている。自衛官がエセックスに乗り込み、実弾射撃に加わっている。自衛隊だけでなく、米海兵隊が島嶼防衛演習を行い、それを自衛隊が護衛している。日出生台では陸上自衛隊が同時に実動演習を行っている。沖縄ではP

A C 3のミサイル防衛訓練実施。

別の報道では、南西諸島で空中戦を繰り広げる戦闘機の発着基地であるジョージワシントンの航行を自衛隊の護衛艦が護衛している。ジョージワシントンには自衛隊のヘリコプターが離発着。

日米の陸海空一体となった対中国島嶼作戦演習であった。自衛隊幹部の言葉「米海軍はE S Gの一部に海自を組み込んだ運用を見据えている」は、米の世界戦略とアジア戦略に、対中国戦略に深く組み込まれている。

### ( 3 ) カール・ビンソン空母打撃群の日米、米韓合同演習 ( 1月5日～11日 )

原子力空母カール・ビンソンが 2011 年 1 月、ジョージ・ワシントンに代わって沖縄近海、日本海に投入され、自衛隊や韓国軍と続けざまに合同軍事演習実施。( 日程は 5、6、7 日が沖大東島近海、沖縄本島南東での実弾訓練、9、10 日が五島列島の南西での合同演習、11 日からは韓国との合同演習 )

17 正午の NHK ニュースは、近日中に、米原子力空母カールビンソンと海上自衛隊が、沖縄東方沖で、大規模な軍事演習実施し、中国、北朝鮮をにらんで、米原子力空母GWの軍事プレゼンスを増大させるためと報道。

長崎県五島沖：カールビンソンと海自合同軍事演習

<http://www.youtube.com/watch?v=iGkZGkILFnk> ユーチューブで放映。

横須賀基地を母港とする空母ジョージ・ワシントンが約3カ月間の定期整備に入り、その穴を埋めるため2隻目の空母を投入したものだ。メディアでも、継ぎ目なく空母を投入し日本、韓国で共同訓練まで行うのは極めて異例のことだと報道。

だがこれは異例ではなく、今後は基本的なスタイルにしようとしているのではないか。これこそが、「新防衛大綱」に書かれた「動的抑止力」「シームレス」の危険をまざまざと表している。

「動的抑止力」とは、「存在自体による抑止効果」ではなく、情報収集を日常的に強化し、兵員と兵器を絶えず実戦態勢に置き、いつでも戦闘状態にはいれるようにしておこうというもの。「シームレス」とは軍事演習と実戦との境をなくすことなどを意味する。

米国は、作戦可能な空母を常時東シナ海や日本海に展開させ、絶え間なく軍事演習を行い、いつでも軍事行動に移れる「臨戦態勢」をとっていることになる。

とりわけ空海自衛隊との演習で相互運用性を高め、演習を通じて自衛隊を米軍とともに戦える軍隊へと変貌させようとしているのである。

今回の演習は、五島列島沖東シナ海で行われ、カール・ビンソンを軸とした第1空母打撃群の駆逐艦など3隻に海自護衛艦くらまが参加。10日にはこの演習が公開された。艦対艦の模擬戦闘や日米両艦における航空機の相互着艦・艦隊行動訓練などを実施している。つまり日米双方の艦船を共通の離発着地点として、日米の軍用機が島嶼攻撃や北朝鮮攻撃を実行するという演習実施。これに先立ち、5日からは、沖大東島近海で実弾訓練などを行い、7、8両日には沖縄本島南東でも実弾訓練を行った。その際、海自艦艇やP3

C哨戒機と通信訓練を実施している。(沖縄タイムスは、5日の訓練は行われなかったと報じている。)

昨年12月の日米共同統合演習では、沖縄本島南東の提供水域外で、模擬機雷の搜索・回収訓練が行われていたことが発覚。公海で漁をする漁業者にきわめて危険だが政府は抗議もなにもしていない。外務省沖縄事務所の担当大使が「米は反省すべきだ」と個人的感想を述べただけだ。今回の演習についても米側は当初尖閣諸島大正島でも訓練を実施すると通達したが、事前にメディアで報じられたことから中止された。

琉球新報は、「平時において統制が効かない軍だ。有事ともなればどんな行為に出るか。沖縄戦の悪夢もよぎろう。」と無法な米軍の行為を指弾している。

#### (4) さらに連続される日米共同軍事演習

防衛省・自衛隊は南西諸島など島嶼(とうしょ)防衛強化のための日米共同を含む軍事演習を実施。1月20日から2月3日まで、陸上自衛隊と米陸軍が島嶼部への武力攻撃事態などを想定した図上演習を実施(陸上自衛隊健軍駐屯地(熊本県)など九州全域で)。陸上自衛隊は2月に米海兵隊とカリフォルニア州で実働訓練。2~3月陸上自衛隊と海兵隊が滋賀県あいばの演習場で日米共同軍事演習実施。新たな防衛計画の大綱(防衛大綱)に示す「動的防衛力」の具体化を狙う。来年度は九州で、陸海空自衛隊が共同で離島侵攻を想定した実働演習を初めて実施。陸上自衛隊日出生台演習場(大分県)などを離島に見立て島に先に入った陸自を海空自が援護し、敵軍上陸を阻止するという内容の実働演習。

1/23 大分県の労働組合の連合が、日出生台演習場前で在沖米海兵隊の実弾砲撃演習反対集会を開催予定。

#### (5) 日韓軍事強化の進行

1月10日ソウルで行われた北沢防衛相と韓国の金寛鎮(キムグァンジン)国防相との日韓防衛相会談は、物品役務相互提供協定(ACSA)締結に向けた協議開始と、軍事情報包括保護協定(GSOMIA)で意見交換の進行と、防衛相、次官級協議を定例化していくことで一致。平時からの韓国軍との協力関係は、いっそう戦争開始への敷居を低下させ、きわめて危険な動きである。絶対やめるべきだ。

物品提供協定を協議へ = 日韓防衛相が合意(時事通信)

<http://www.jiji.com/jc/zc?k=201101/2011011000297>

物品役務提供へ協議 日韓防衛相会談 軍事情報保護協定も(西日本新聞)

<http://www.nishinippon.co.jp/nnp/item/220059>